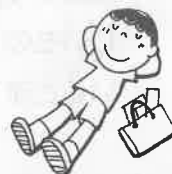


1ねん学年だよ！

令和3年9月10日(金) 第21号



楽しい？ 楽しくない？【前編】



毎年小学6年生と中学3年生で実施される「全国学力・学習状況調査」(学テ)のことは、テレビでも大きく報道されるので知っている人も多いと思います。去年小学6年生だったキミたちは学テを受けるはずでしたが、昨年度は新型コロナの影響で中止されました。キミたち64期生は再来年、中学3年生になったときに受ける予定です。さて、そんな学テですが、今年度は無事に実施され、先日、その結果が公表されました。今日の学年だよりは、そのニュースから話を始めようと思います。



昨年度に3か月以上もの長期にわたる臨時休業を経験した学年が受ける学テは、臨時休業の影響が出るかどうか、その結果に大きな関心が寄せられていました。しかし、終わってみれば、全国的にその平均正答率は例年と大きく変わることがなく、臨時休業の影響は認められませんでした。

ただ、少し気になる結果も見られます。学力検査と合わせておこなわれる「生活質問紙調査」というアンケートによると、「勉強に不安を感じた」と答えた生徒が63%もいたということです。授業がなくなることを、最初は「ラッキー♪」などと軽く考えていた人も、休業が思った以上に長く続くことから次第に不安になっていたようです。そのことは、キミたちも賛同できるのではないのでしょうか。さらに、「将来の夢や目標をもっている」という質問に「当てはまる」と回答をした生徒は、例年より4ポイント以上も減っているということです。授業が受けられず、自分の成績が下がっていくという不安を感じた生徒が、そのまま将来の夢や目標を諦めてしまうということがあったのではないかと分析されています。その分析が正しいのだとすれば、実に寂しい結果だといえます。



さらに心配なことに、「学校に行くのは楽しいと思う」という質問に「当てはまる」と回答した生徒も2.4ポイント減っているということです。専門家の人たちは、新型コロナ感染拡大の影響で、いろんな学校行事が中止されたことや、休み時間や給食の時間など、友だちと触れ合う時間が制限されたことに原因があるのではないかと指摘しているそうです。小学6年生だったキミたちは、去年、どんな気持ちで学校生活を送っていたのでしょうか。もしかして、将来の夢や目標を諦めてしまった人もいるのでしょうか。「学校に行くのが楽しくない」と考えていた人もいるのでしょうか。そういう人たちが、今もそのときと変わらず、夢を諦めたまま、学校も楽しくないのでしょうか。



楽しい？ 楽しくない？【後編】



「学校に行くのが楽しくない」、「楽しいと思わない」という人は、「楽しい」や「楽しいと思う」という言葉について考えたことはあるでしょうか。「楽しい」や「楽しいと思う」という言葉の裏には、『与えられた学校生活を、自分が「楽しい」と思うかどうか』という意味が含まれています。つまり、前提に【誰かから与えられた学校生活】があるのです。その「誰かから与えられた学校生活」が、楽しいものであれば「楽しい」と思い、楽しくないものであれば「楽しくない」と思う——。間違っているとまではいいませんが、どことなくその発想は「受け身」の姿勢だと思いませんか？



《自分が置かれた状況を「楽しい」と思えるのは、その人の才能だ》という考え方があります。似たような言葉に《幸せは自分の心が決める》というものもあります。どんな状況でも、その人の気持ち次第で「楽しい」、「幸せだ」と思えるということです。この言葉、キミはどう思いますか？

新型コロナの影響で私たちは1年半以上も不自由な生活を強いられています。では、私たちのこの1年半は「楽しくなかった」のでしょうか。「幸せではなかった」のでしょうか。やはり、そんなことではないと思います。確かに、新型コロナの影響で《できなかったこと》はたくさんありますが、その反対に《できたことのありがたさ》は、より一層輝くことになりました。「マスクをつけていることでその人の表情がわからない」といったことには悩まされますが、それまで見ていた顔と、たまたま見た素顔、マスクを外した顔とのギャップに新鮮な驚きを抱いたときの楽しさなんて、コロナ前は考えたこともありませんでした。不思議なことに、話す相手と“ソーシャルディスタンス”をとることは、仲間との“心の距離”について考えるきっかけを与えてくれました。



不自由なことがたくさんある毎日で、そのことを否定するつもりはありません。でも、「不自由なこと」は「不幸なこと」でも「楽しくないこと」でもありません。毎日の生活をしっかり見つめてみると、不自由な生活をも「楽しむ」チャンスはいくらでもあります。そうです。何もせず受け身の姿勢で“与えられた楽しさ”を待ち構えるのではなく、「(学校生活を)楽しむ」という“攻めの姿勢”で生きていこうではありませんか。先生たちは、キミたちが学校生活を楽しむことができるように、全力を尽くすことを約束します。それは、「楽しい学校生活を与える」ことを約束するのではなく、どんな学校生活をも「楽しむことができる才能(=感性)」を身に付けることを約束するということです。

保護者のみなさまへ

新型コロナの影響は、大人だけでなく子どもにも大きな影響を与えています。中学1年生にとっては「どんな影響があるのかもわからない」というのが正直なところかもしれません。でも、「どんな影響があるのかもわからない」ことほど不安なものはないとも思います。ご家庭でもいろいろな話をしたいと思います。ぜひ「そのときはどんな気持ちだった？」という質問をしてみてください。自分でもよくわからない気持ちも、言葉にすることで整理され、次第に落ち着いてくるものです。

